-全国 1,240 人を対象に「がんの早期発見・検診に関する意識調査」を実施-

# がんの早期発見を「無症状時の発見」と捉える人は約 75%
# 一方、同認識層の定期的ながん検診受診は、がん種別で 4 割以下

## ～現在がん検診を受けていない人の約 3 人に 2 人が「無症状でも検診は必要」と認識～

- がんの早期発見を「症状がない段階で、がん検診によって発見すること」と捉える人は 75.2%。一方、がん種別の定期的な検診受診割合は 25.3～40.3%
- 現在がん検診を受けていない人の約 3 人に 2 人（65.7%）が「症状がなくてもがん検診は必要」と認識
- 無症状でもがんになり得ると 91.8%が認識。一方、そのうち 70.0%は症状がないときに自分自身のがんの可能性を考えることが少ない

2026 年 11 月 26 日－アボット（米国イリノイ州アボットパーク）は、がんの早期発見に対する認識や、症状がないときのがんに対する意識、がん検診の受診状況などを明らかにするため、全国の男女 1,240 人を対象に「がんの早期発見・検診に関する意識調査」を実施しました。

今回の調査では、がんの早期発見を「症状がない段階で、がん検診によって発見すること」と捉える人が 75.2%に上った一方、定期的にがん検診を受けている人の割合は、がん種別で 25.3～40.3%にとどまりました。また、現在がん検診を受けていない人の 65.7%が、症状がなくてもがん検診を受ける必要があると回答しました。

さらに、症状がなくてもがんになっている可能性があると考える人は91.8%に上りましたが、そのうち70.0%は、症状がないときに自分自身ががんになっている可能性について考えることが少ないと回答しました。

これらの結果から、がんの早期発見や検診の必要性は広く認識されている一方で、必ずしも自分自身のがんの可能性を意識することや、定期的な検診受診につながっていないことがうかがえます。

本調査を監修した、がん診療と新しい診断・治療技術の研究開発に携わる今井光穂 医師は次のようにコメントしています。
「今回の調査では、がんの早期発見や検診の重要性が広く認識されている一方、その認識が必ずしも定期的な検診受診につながっていないことがうかがえます。がんの中には、初期の段階では自覚症状が現れにくいものもあります。また、症状がなくてもがんになっている可能性があることを理解していても、自分自身のこととして意識する機会は少ないという結果も示されました。がんの早期発見に向けては、症状がないことを安心の理由とするのではなく、日頃から自身の健康に関心を持ち、症状がない段階からがんの早期発見について考えることが大切です。そのうえで、年齢や性別などに応じて推奨されるがん検診を定期的に受けることが重要だと考えます。」

**【がんの早期発見・検診に関する意識調査】**

**＜調査概要＞**

- 調査目的　　：がんの早期発見に対する認識や、症状がないときのがんに対する意識、がん検診の受診状況を明らかにすること
- 調査主体　　：アボット（エグザクトサイエンス株式会社）
- 調査監修　　：今井光穂 医師
- 調査委託先　：株式会社マクロミル
- 調査方法　　：インターネットリサーチ
- 調査対象者　：全国 女性 20～69 歳、男性 40～69 歳
- 対象者条件　：医師からがん・悪性腫瘍と診断された経験がない方
- 回収者数　　：1,240 人
- 調査実施期間：2026 年 10 月 2 日～10 月 3 日

※調査結果は回答者の自己申告に基づきます。設問によって回答対象者が異なります。
※全体の 1,240 人に対し、人口構成に合わせてウェイトバック集計を実施。「%」はウェイトバック後のスコア、「n」はウェイトバック前（回収時）のサンプル数を掲載。
※割合は小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しているため、合計が 100%にならない場合があります。
※本調査は一般的なアンケート結果であり、解釈にはご注意ください。

**＜主な調査結果＞**

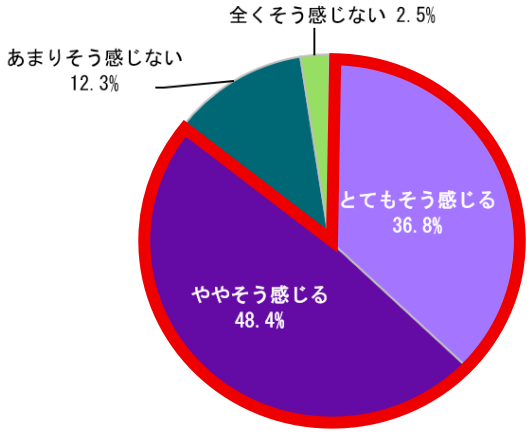
**1. がんの身近さと罹患割合の認識**

**がんを身近に感じる人は 85.2%。一方、一生のうちに「2 人に 1 人」ががんになる[1]と正しく回答した人は 24.9%**

がんを自分にも起こり得る身近な病気だと考えるか尋ねたところ、85.2%が「身近な病気」と回答しました。一方、日本人が一生のうちにがんと診断される割合について尋ねたところ、「2 人に 1 人[1]程度」と正しく回答した人は 24.9%にとどまりました。

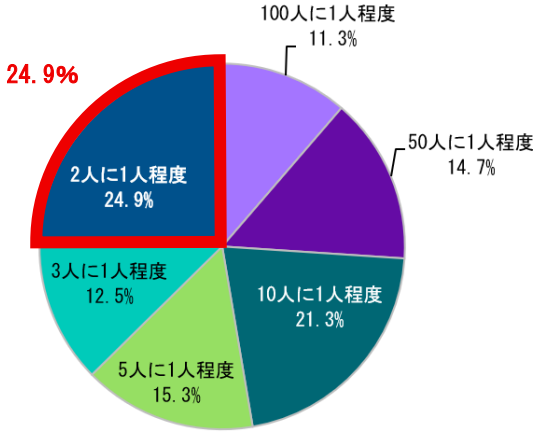
がんを自分にも起こり得る病気として身近に感じる人が多い一方、生涯のがん罹患割合についての認識には違いがあることが分かりました。

**がんを「自分にも起こり得る身近な病気」と捉える人の割合**
Q1.あなたは、がんを「自分にも起こり得る身近な病気」だと思いますか。(n=1,240/単数回答)




**「とてもそう感じる」＋「ややそう感じる」 85.2%**

**日本人の生涯のがん罹患割合に対する認識**
Q2.日本人が一生のうちに「がん」と診断される割合は、どの程度だと思いますか。以下の中からあなたが最も近いと思うものをお答えください。
(n=1,240/単数回答)



## 2. 無症状時のがんへの意識

**無症状でもがんになり得ると 91.8%が認識。しかし、そのうち 70.0%は症状がないときに自分自身のがんの可能性を考えることが少ない**

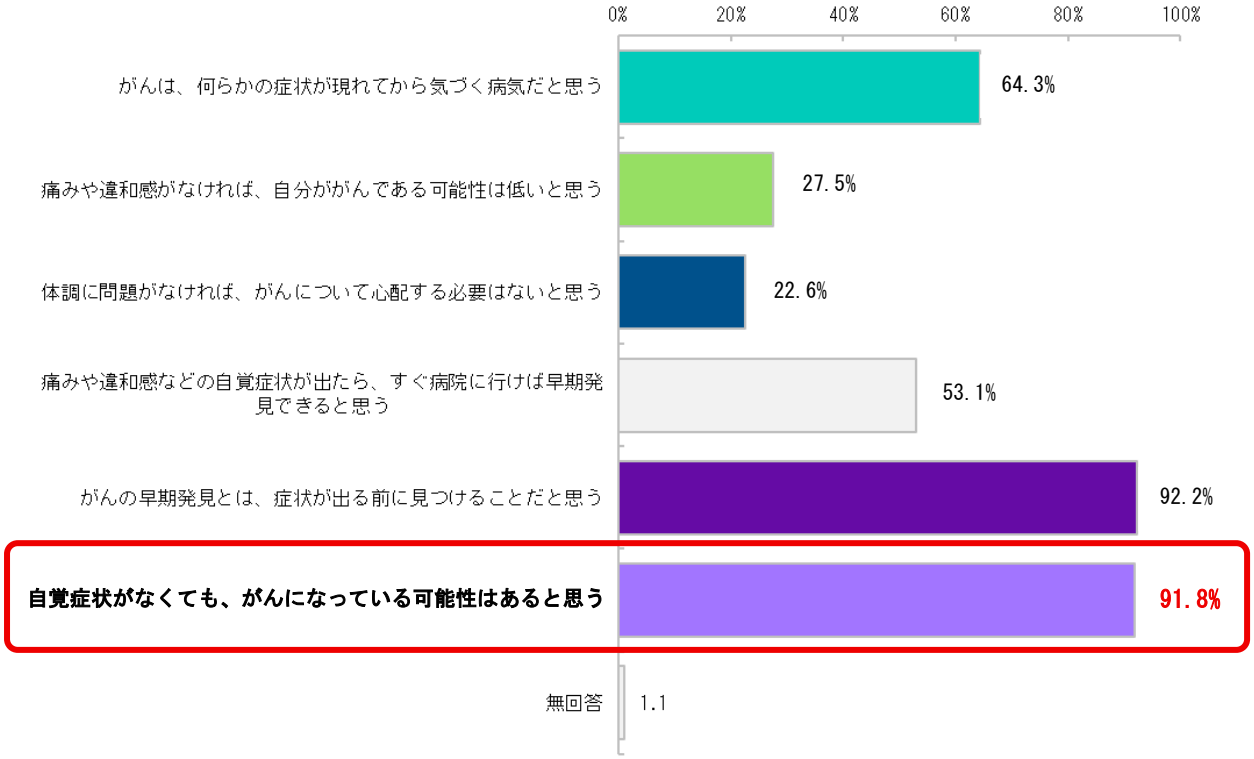
「症状がなくてもがんになっている可能性がある」という考え方について尋ねたところ、91.8%が同意しました。一方、この考え方に同意した人に対し、症状がないときに自分自身ががんになっている可能性について考えることがあるか尋ねたところ、70.0%が「あまりない」「まったくない」と回答しました。

無症状でもがんになり得ることは広く認識されている一方、症状がないときに自分自身のがんの可能性を意識する機会は、必ずしも多くないことがうかがえます。

**がんの早期発見や自覚症状に関する認識**

Q3. 次のそれぞれについて、あなたの考えにどの程度当てはまりますか。(n=1,240)

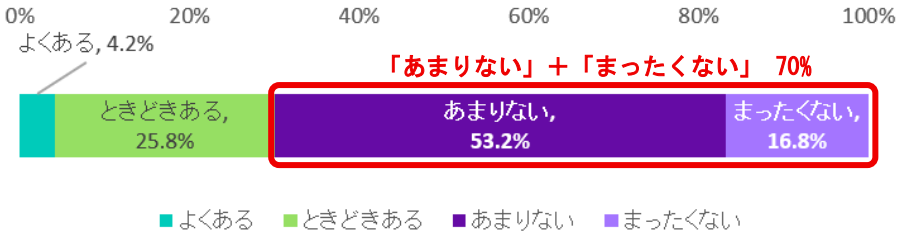
※各項目について「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答した人の割合の合計




**症状がないときに、自分自身ががんである可能性を考える頻度**

Q4. 痛みや違和感などの自覚症状がないときでも、「自分はがんかもしれない」と考えることはありますか。(n=1,138/単数回答)

※Q3「自覚症状がなくても、がんになっている可能性はあると思う」に「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答した人を対象に集計



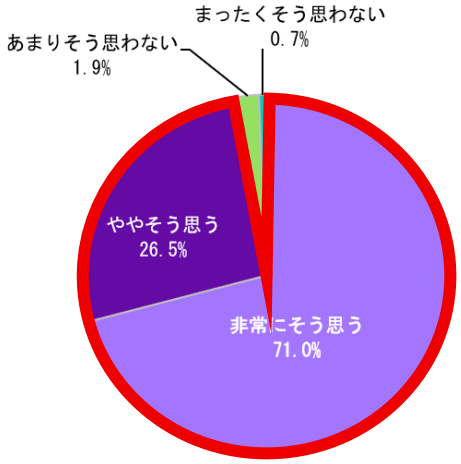
## 3. 早期発見の認識と定期受診

**約 4 分の 3 が、早期発見を「症状がない段階での発見」と捉えていても、定期的な検診受診割合はがん種別で 25.3～40.3%**

がんの早期発見については、全体の約 97%が重要だと回答しました。また、がんの早期発見をどのようなことだと捉えているか尋ねたところ、75.2%が「症状がない段階で、がん検診によって発見すること」と回答しました。

**がんの早期発見の重要性に対する認識**

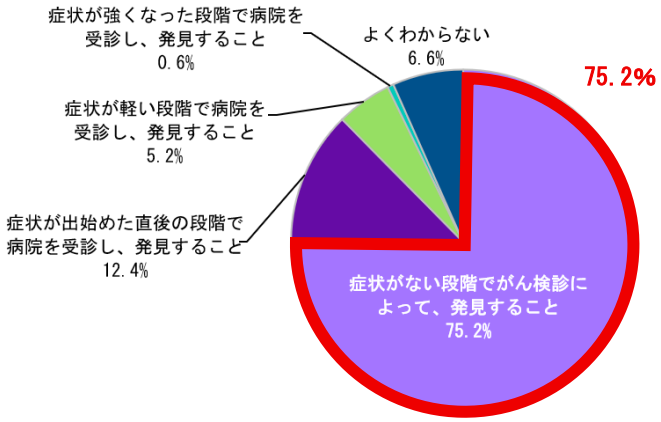
Q5. あなたは、がんの早期発見が重要だと思いますか。（n=1,240/単数回答）




**「非常にそう思う」＋「ややそう思う」**
**97. 5%**

**「がんの早期発見」に対する認識**

Q6.あなたが「がんの早期発見」と聞いて、認識が最も近いものを選んでください。（n=1,240/単数回答）

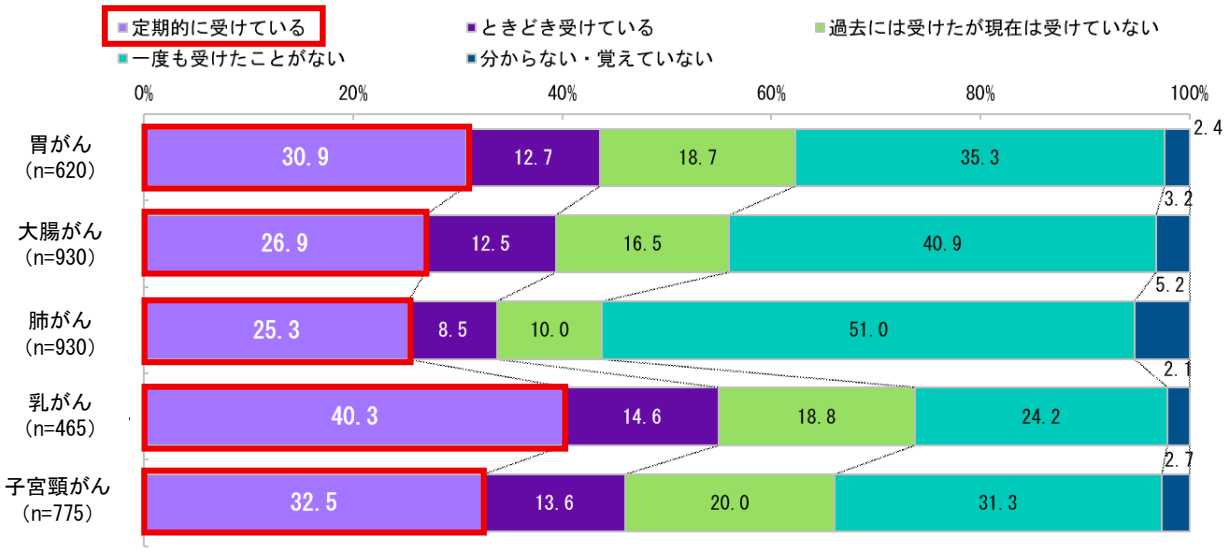



一方、国が推奨する 5 つのがん検診[2]を定期的に受けている人の割合は、胃がん 30.9%、大腸がん 26.9%、肺がん 25.3%、乳がん 40.3%、子宮頸がん 32.5%となりました。

がんの早期発見の重要性が広く認識され、症状がない段階での発見についても理解が進んでいる一方、定期的な検診受診には必ずしもつながっていないことがうかがえます。

**がん種別の定期受診割合**

Q7. あなたは、以下の国が推奨する 5 つのがんのうち、ご自身が対象となる検診を定期的に受けていますか。



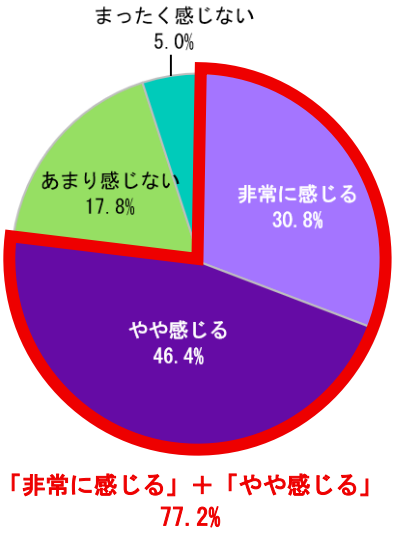
## 4. 検診の必要性と受診状況

**約 8 割が無症状時のがん検診を必要と認識。現在がん検診を受けていない人でも 65.7%が必要と回答**

症状がなくてもがん検診を受ける必要があると思うか尋ねたところ、77.2%が必要だと回答しました。さらに、がん検診の受診状況別に分析したところ、現在がん検診を受けていない人でも、65.7%が症状がなくてもがん検診を受ける必要があると回答しました。

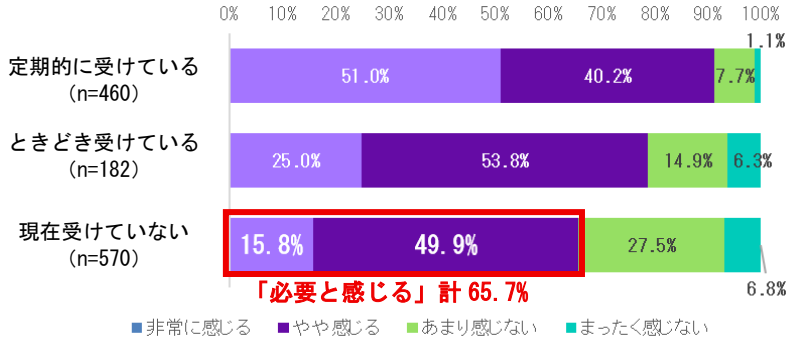
この結果から、現在がん検診を受けていない人の中にも、無症状時の検診の必要性を認識している人が一定数存在することが分かりました。

**「症状がないときのがん検診の必要性」に対する認識**
Q8.痛みや違和感などの自覚症状がないときでも、がん検診を受ける必要があると思いますか。(n=1,240/単数回答)




**「非常に感じる」＋「やや感じる」**
**77.2%**

**「症状がないときのがん検診の必要性」に対する認識（がん検診の受診状況別）**
Q8. 痛みや違和感などの自覚症状がないときでも、がん検診を受ける必要があると思いますか。




※Q7 のがん検診受診状況別集計。
「現在受けていない」は、「過去には受けたが現在は受けていない」「一度も受けたことがない」と回答した人が対象
(「分からない・覚えていない」は除外)

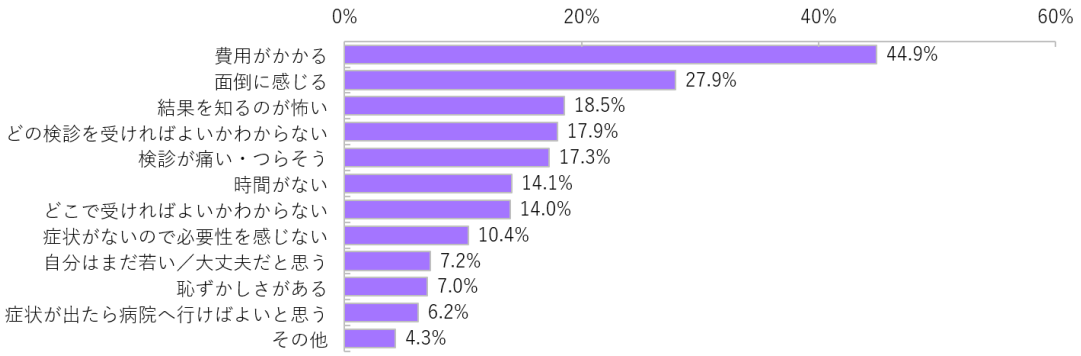
## 5. 検診を受けない・先延ばしにする理由

**がん検診を一度も受けたことがない人が挙げる理由は、費用や手間、検査結果への不安などさまざま**

国が推奨する 5 つのがん検診（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん）のうち、ご自身が対象となる検診を定期的に受けているかを尋ねた質問で、「一度も受けたことがない」と回答した人に対し、検診を受けない・先延ばしにする理由を尋ねたところ、「費用がかかる」が最も多く挙げられました。

このほか、受診を面倒に感じることや検査結果への不安、どの検診をどこで受ければよいかわからないといった情報面の課題など、さまざまな要因があることがうかがえます。

**対象となるがん検診を一度も受けたことがない人の未受診・先延ばしの理由**
Q9.がん検診を受けない、または先延ばしにする理由として、当てはまるものをすべて選んでください。
（n=362/複数回答）　※Q7 で対象となるがん検診について「一度も受けたことがない」と回答した人を対象に集計



アボットは、今回の調査結果を踏まえ、がんの早期発見に対する正しい理解が社会に広がり、一人でも多くの方が自身の健康やがんの早期発見について考えるきっかけとなるよう、今後も情報発信や啓発活動を通じて貢献してまいります。

**■アボットについて**

アボットは、人々が人生のあらゆるステージにおいて最高の人生を送ることができるようサポートをするグローバルヘルスケアリーダーです。業界をリードする診断薬・機器、医療機器、栄養剤、およびブランド ジェネリック医薬品分野の事業および製品を含め、人々の生活に大きな影響をもたらす画期的なアボットの技術は、ヘルスケアの広範な領域にわたっています。現在、世界 160 カ国以上で、約 122,000 人の社員が活動しています。
アボット（www.abbott.com）、アボットジャパン（www.abbott.co.jp）、リンクトイン（www.linkedin.com/company/abbott-/）、フェイスブック（www.facebook.com/Abbott）、インスタグラム（www.instagram.com/abbottglobal）、X（x.com/AbbottNews ）、YouTube（www.youtube.com/c/abbott）、YouTube ジャパン（www.youtube.com/@abbottjapan）も合わせてご参照ください。

---

本件に関するメディアからの問い合わせ先
アボットジャパン合同会社　パブリックアフェアーズ
〒108-6305　東京都港区三田 3-5-27　住友不動産東京三田サウスタワー
TEL：03-4555-1002
email: paj@abbott.com

---

出典

1. 国立がん研究センター がん情報サービス「がんの基礎知識　がんという病気について」
   検索日：2026 年 11 月 19 日 https://ganjoho.jp/public/knowledge/basic/index.html
2. 厚生労働省「早期発見・早期治療につなげるために 正しく知ろう！がん検診」
   検索日：2026 年 11 月 19 日 https://ganjoho.jp/public/knowledge/basic/index.html